



広報 おおの

平成18年（2006年）

No. 727



特集

「食育」で体と心をはぐくむ

和泉小・中学校完成／当初予算／介護保険料の改定／
学びの里「めいりん」オープン延期／下水道課事務所
の移転／定例市議会／各種助成制度 など

4月号

ホームページ <http://www.city.ono.fukui.jp/>
Eメール yamabiko@city.fukui-ono.lg.jp

「食育」で体と心をはぐくむ

最近、食育という言葉をよく耳にします。しかし実際には「食育って何?」「どうすればいいの?」と、とまどっている人が多いのではないのでしょうか。そこで今回は、学校や家庭、地域での取り組みを通し、全国的なテーマとして注目され始めた食育の実体に迫ってみたいと思います。

食育って何?

食べることは、私たちの体と心をはぐくむ基本です。平成十七年に施行された食育基本法では「食育とはさまざまな経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人を育てること」とされています。

なぜ食育なの?

近年、食を取りまく環境が大きく変化しています。急速に豊かで便利になった社会。食べ物があふれ、食に関する情報も氾濫(はんらん)しています。

そのような中で、食事はコメや野菜中心から肉類や油脂類の多いものになり、また外食や加工食品などを利用する回数が増えています。家庭の食卓からは伝統的な食文化

が失われつつあり、若い世代を中心に朝食を取らない、過度のダイエットをするなどの問題も見られます。さらに栄養バランスの崩れから、大人から子供まで生活習慣病の危険が高まっています。このほかにも食料自給率の低下や食べ残しなど、食に関する問題は山積みです。今ここで、命の原点ともいえる「食」を見直すことが必要になっていきます。

学校・家庭・地域の連携で

食育を進める上で、学校・地域・家庭の連携は欠かせません。

単に食に関する知識を身に付けるだけではなく、食卓での一家団らんを通じて社会性をはぐくんだり、体験を通して地域の産物や食文化を学んだりすること。それらすべてが食育なのです。

食育 5つのポイント

● 食べ物と身体の関係が分かる

食べ物がどのように健康に影響するのか、なぜ食べることが必要なのかなど、食に関する基礎的な知識を深めます。

- ・消化の仕組みや栄養素の働きを知る
- ・栄養バランスを考える
- ・規則正しい食生活を習慣付ける
- ・毎日の食欲や排便状況などから自分の健康状態を把握する方法を身に付ける

● 食べ物の生産と流通を理解する

食べ物がどこで生産され、どんな流れで食卓に届くのかを理解します。食を通じて命の尊さが分かり、自然や育てた人への感謝の心が生まれます。

- ・生産や流通の仕組みを知る
- ・地域の産物や食べ物の旬を知る
- ・野菜などの栽培や収穫を体験する

● 食べ物を選択できる

食べ物の情報を正しく理解し、食べ物を選択できる能力を身に付けます。

- ・食品表示の内容を理解する
- ・自分に必要な栄養素を含む食べ物やアレルギーを起こす食べ物を知る

● 料理ができる

調理器具の使い方を覚え、栄養バランスを考えた献立作りや食材の特徴を生かした調理ができるようにします。

● 食を楽しむ

食を楽しむことで、子供のうちに正しい食習慣を身に付けます。

- ・旬の新鮮な味を体験する
- ・日本の食文化を知る
- ・家族みんなでそろって食べる

学校ではぐくむ

市内の各小・中学校では、地域の農業グループなどと連携し、給食に地元の食材を使う「地場産給食」が進められています。また昨年からは、教育現場の食育の中心を担う「栄養教諭制度」がスタートし、各校に配属された栄養教諭が、食に関する指導や給食管理に取り組んでいます。

食の先生が誕生

栄養教諭とは「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体的に行う食育担当の先生のことです。昨年四月に、県内で十人の栄養教諭が生れました。

市内では開成中学校の廣瀬美恵子さんが、子供たちに健康の基礎となる栄養や食事の取り方の正しい知識を身に付けてもらおうと、工夫を凝らした食育に取り組んでいます。



開成中学校2年生の教室で、食習慣と生活習慣病の関係について授業をする廣瀬さん。生活習慣病を予防する食品や、一人一人に見合った食事の量、必要な栄養素などを説明します。

自分で作れるように

開成中学校では昨年、総合的な学習の時間に「食育の授業」を四時間取り入れました。

一年生は自分が食べた三日分の食事を記録し、栄養バランスが取れているかどうかを確認。二年生は食生活と生活習慣病をテーマに、食事が健康に及ぼす影響を学びました。

三年生はさらに一歩進み、家庭にある食材を使って自分で朝食を作れるようにと、献立作りから調理までの実習を行いました。事前に各家庭にある食材を調べ、その中で野菜とタンパク源を含む献立を作成。慌ただしい朝の時間帯に合わせ、調理時間は二十分に設定しました。

エプロンと三角きんを着けた生徒たちは、慣れない作業に大騒ぎ。それでも時間内に味噌汁やサンドイッチなどを二品程度完成させ、自分たちで考えて作った料理をおいしく味わいました。



男子生徒も意欲的に料理に挑戦

毎日の積み重ねが大切

陽明・尚徳・上庄中学校も兼務する廣瀬さんは「昨年は各学校で食育の時間を持てたことが大きな成果」と話します。しかし「食は毎日の積み重ねが大切。定期的に続けなければ正しい食習慣は身に付きません」と課題ものぞかせます。特に最近では栄養バランスの崩れによる生活習慣病や、偏食・過食による肥満、食物アレルギーなどの問題もあり、一人一人の状態を考えた個別指導が重要になっていると強調します。

「一年を通して考えると、給食は食事全体の六分の一。やはり家庭での食事が大切です。その日の食卓に出ている食材について子供と話すなど、できることから始めてみてはどうでしょう」と話していました。



みんなで料理を盛り付け。祐美ちゃんと涼くんもお手伝い

家庭ではぐくむ

多くの人にとって、家庭は食に触れる機会が最も多い場所です。3世代7人が同居する川端さん（小矢戸）のお宅では、できるだけ家族がそろって食卓を囲むように心掛けているそうです。

食事はコミュニケーション

三世代七人が同居する川端家の食卓は、いつも明るくにぎやかです。話題の中心は、六歳の祐美ちゃんと三歳の涼くん。保育園であったことや友達と遊んだことなど、二人の話題は尽きません。

食卓には祖母の安子さんが家庭菜園で作った野菜を中心に、手作りの料理がずらりと並びます。「家族に安全なものを食べさせたいと思い、八年ほど前から有機栽培を始めました。トマトやキュウリなど野菜はほとんど自家製です。孫たちも喜んで食べてくれますよ」と安子さん。

母の希久子さんは「母が昆布巻きやイモの煮転がしを作ってくれるので、子供たちにいるんな料理を食べさせられます。ありがたいですね」とこっこり。最近祐美ちゃんが手伝ってくれることもあるそうで「一緒に料理をすることで、家庭の味を伝えていければ」と話します。

父の正宏さんは「普段は仕事で遅くなるので、休みの日は必ず家族と一緒に食べるようにしています。会話を通して家族のことがよく分かりますし、何よりみんなで食べるという感じがします。食事は大切なコミュニケーションの時間ですね」と笑顔で話してくれました。

地域ではぐくむ

「NPO法人田んぼの学校越前大野」では、市内の子供や親子を対象に、田植えや稲刈りなどの農作業を中心とした体験学習を行っています。



子供たちはすっかり田んぼがお気に入り

農業体験で命の尊さを学ぶ

五月中旬、上舌にある田んぼの学校の学習田では、泥んこになって田植えを楽しむ子供たちの姿を見ることが出来ます。これは、田んぼの学校が平成十一年から開いている「農村環境親子体験事業」の一場面です。毎回約二十人の親子が参加し、田植えや稲刈りを中心に、縄ないや

竹ばし作りなどを体験します。また最近では、学校からの「総合的な学習の時間」の依頼も増えています。

体験事業は年間を通じて五回程開かれ、参加者は田植えから稲刈りまでの一連の流れを体験します。また田んぼや水路に棲む水生生物の観察会なども行われ、田んぼが自然環境に果たす役割も学びます。

「まずは土に触れること、そして水の冷たさや田んぼの温かさを感じること。それが現代の子供たちには大切だと思います。食べるということとは命をいただくということですから、その原点を知ること、命の尊さを感じ、食にかかわるさまざまな人に感謝する心が育つと思います」と代表の高津靖生さん。

参加した子供たちからは「給食の時に苗を植えたり稲を刈ったりしたことを思い出します」と書いた手紙が届くこともあるそうで、高津さんは「これが本当にうれしい」と目を細めながら話してくれました。

木の香りと光があふれる 和泉小・中学校の新校舎完成

平成十七年五月から改築工事を進めていた和泉小学校と和泉中学校併設の新校舎が完成しました。新校舎の完成により移転することになった小学校は、朝日小学校から和泉小学校に名称を変更しました。

ぬくもりを感じるデザイン

完成したばかりの校舎の中に一歩踏み入ると、すがすがしい木の香りが訪れた人を包みます。道路に面した北側には直径約三〇センチの磨き丸太が立てられ、教室の床板や腰板には和泉産のスギがふんだんに使われています。和泉ならではの「木のぬくもり」を感じさせる校舎です。

また壁面には強化ガラスが多く使われ、校舎の中には日の光がさんざんとそそぎ込みます。明るく温かく優しい雰囲気、建物の隅々にまであふれています。

さらに環境に関する配慮として、屋上の断熱化や太陽光発電、ハイサ

イドライト（高い位置に取り付ける窓）などを採用し、エネルギー負荷の少ない設計となっています。

新校舎が目指すもの

今回完成した新校舎には、和泉小学校の児童三十九人と、和泉中学校の生徒十六人が通います。小学校と中学校を同じ校舎にした背景には、次のような目的があります。

- 児童・生徒数の緩やかな減少傾向に対応し、少しでも大勢の中で教育活動を体験させる
- 小・中を合わせた九年間で小・中一貫教育を推進する
- 小・中教職員の交流により、専門的で効果的な学校運営を行う

新校舎は和泉中学校の校舎を改築し、体育館などの既存施設を利用して建てられました。

構造：鉄筋コンクリート造・3階建て。総事業費：約8億7千万円。延べ床面積：約3239平方メートル（既存施設を含む）



明るく静かな南側に配置された教室。教室横には開放的なオープンスペースが設けられています。



1階中央に配置された多目的ホール。地域にも開放され、集会やイベントなどに利用されます。



「学びの森」と名付けられたラーニングセンター（図書室・パソコンコーナー）。丸太の柱や吹き抜けの空間が、森の雰囲気を感じさせます。

平成18年度 当初予算の概要

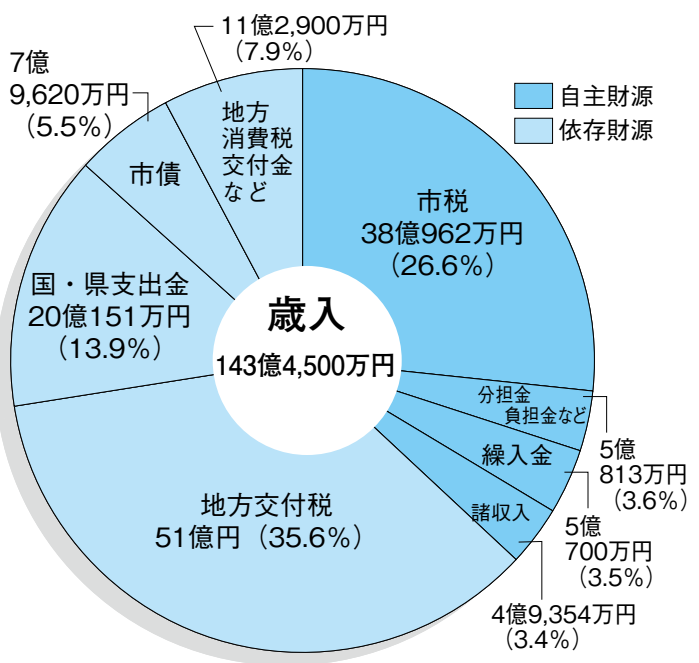
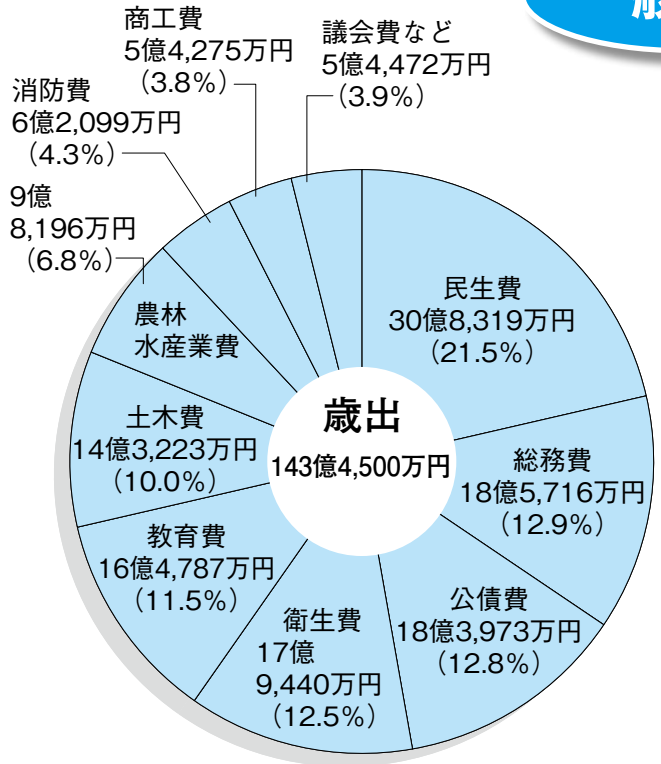
平成十八年度の当初予算案が、三月定例市議会で可決されました。学びの里「めいりん」など大型建設事業の終了により、少子化対策や子育て支援など住民サービスに重点を置いた予算の概要を紹介します。

平成18年度当初予算額

※対前年度比は、旧和泉村分を含んだ前年度予算額との比較です

区分	予算額	対前年度比
一般会計	143億4,500万円	△15.0%
特別会計	131億567万円	1.4%
企業会計(水道)	2億1,394万円	△24.3%
総額	276億6,461万円	△8.0%

一般会計



歳出
今回の予算は▼第四次大野市総合計画後期計画の推進▼循環型社会の構築などを目指した環境施策の推進

歳入
市税は〇・二%増の三十八億九百六十二万円としました。個人市民税は税法改正や定率減税の縮減により一・二%の増、固定資産税は一・〇%の減を見込みました。
また地方交付税は〇・七%減の五十一億円を計上。市債は大型建設事業の終了に伴い、六一・二%減の七億九千六百二十万円としました。

一般会計
一般会計の予算額は、百四十三億四千五百万円、旧和泉村分を含んだ前年度との比較では、一五・〇%の減額となりました。減額の主な要因は、学びの里「めいりん」や広域ごみ処理施設などの大型建設事業が終了したことによるものです。
新規事業では、乳幼児医療費助成や児童手当給付の対象年齢拡充といった少子化対策をはじめ、水を生かしたまちづくり、まちなか観光と和泉の自然観光を合わせた観光立市販売に力点を置いた産業支援策などを中心に予算配分を行いました。

主な新規事業など

産業

創造性と活力ある産業のまち

元気おおの産業支援事業 1,037万円

新規・成長分野の事業を対象に、起業家の調査研究や設備導入、製品の販路開拓を支援します。

人

思いやりと豊かな心を育むまち

食育推進事業（農業振興費） 50万円

食育推進計画の策定をはじめ、農作業体験や親子料理教室を開いて食に対する意識啓発を行います。

食育推進事業（教育指導費） 36万円

子供の食に関する自己管理能力の育成や保護者の意識向上を目指し、学校給食レシピ集を配布します。

スクールバス運行事業 639万円

六呂師小学校と阪谷小学校との統合に伴い、六呂師小学校児童の通学の利便を図るため、スクールバスを運行します。

図書館整備事業 640万円

建設から20年が経過した図書館について、リニューアル工事に向けた設計を行います。

環境

環境保全と美しい景観づくりのまち

水のみえるまちづくり事業 68万円

「水のみえるまちづくり計画」を推進するため、シンポジウムを開催し、市民への啓発を行います。また街なみ環境整備事業との整合性を図りながら魅力的なまちづくりを目指します。

交流

人が集い心が響きあうまち

有終西小学校跡地利用計画策定事業 86万円

関係団体や地元住民の代表、学識経験者など15人からなる有終西小学校跡地利用検討委員会を開催し、計画の作成を行います。

生活

住みたい・住み続けたいまち

乳幼児医療費助成事業 7,069万円

これまで3歳未満児だった乳幼児医療費助成の対象年齢を、小学校就学前まで拡充します。

児童手当等給付事業 2億2,077万円

これまで小学3年生までだった児童手当給付の対象年齢を、小学校修了時まで拡充します。

放課後児童クラブへの障害児受け入れ 211万円

昼間、保護者がいない家庭の障害児を放課後児童クラブで受け入れるため、臨時指導員を配置します。

特別会計

区分	予算額	対前年度比
国民健康保険	33億2,938万円	△1.1%
和泉診療所	1億596万円	△1.3%
老人保健	45億9,605万円	△1.6%
介護保険	28億2,164万円	8.4%
簡易水道	9,331万円	△62.6%
農業集落排水	7億8,557万円	△4.2%
下水道	13億7,376万円	23.8%
総額	131億567万円	1.4%

▼会計の種類

【一般会計】

福祉や教育、道路の整備など、市の基本的な仕事を行う会計です。主に市税と地方交付税で賄われています。

【特別会計】

保険料や使用料など特定の収入で、事業の経費を賄う会計です。一般会計と分けて経理することで、収支を明確にしています。

【企業会計】

民間企業と同じように、事業によって得た収入で支出を賄う会計です。当市では、水道事業が該当します。

- 重点推進事業**
- 亀山周辺整備事業の推進
 - 中部縦貫自動車道の整備促進
 - 森林と水資源の総合的な保全と活用
 - 保健・医療・福祉サービスの一体的推進
 - 「学びの里」づくりの充実
 - 観光の振興

▼将来計画の策定による総合的な福祉施策の推進▼地域経済活性化への積極的な取り組みなどを基本的な考え方としています。その中で次の項目を重点推進事業としました。

4月から 介護保険料が 変わります

65歳以上の介護保険料が4月から変わります。これは3年に1度の見直しによるものです。改定後の保険料は平成20年度まで継続します。

主な変更点

- 基準額（年額）を3万8400円から4万8000円に引き上げました
- これまで5段階だった所得段階を6段階に設定しました
- これまで市民税非課税だった人が、税制改正により第4・5段階に上がった場合、2年間の軽減措置が受けられます
- 前年度から継続して特別徴収（年金からの天引き）の人は、10月から徴収額が上がる場合があります

問合せ先 福祉課高齢福祉係（☎66・1111内線482）

	対 象 者	計算方法	保険料（年額）
第1段階	・老齢福祉年金（老齢基礎年金とは異なります）受給者 で市民税非課税世帯 ・生活保護受給者	基準額48,000円×0.50	24,000円
第2段階	市民税非課税世帯で前年の公的年金などの収入額と、それ以外の合計所得金額の合算額が80万円以下の場合	基準額48,000円×0.50	24,000円
第3段階	市民税非課税世帯で前年の公的年金などの収入額と、それ以外の合計所得金額の合算額が80万円を超える場合	基準額48,000円×0.75	36,000円
第4段階	同じ世帯に市民税課税者がいるが、本人は市民税が非課税の場合	基準額48,000円×1.00	48,000円
第5段階	本人が市民税課税者で、前年の合計所得金額が200万円未満の場合	基準額48,000円×1.25	60,000円
第6段階	本人が市民税課税者で、前年の合計所得金額が200万円以上の場合	基準額48,000円×1.50	72,000円

下水道課事務所が移転します

4月3日⑧から、下水道課事務所が南新在家の下水処理センター内に移転します。

公共下水道や農業集落排水、合併浄化槽などに関する相談は、下記まで問い合わせください。



問合せ先

〒912-0011 大野市南新在家28-3-2
下水道課（☎66・1111 FAX66・1720）

学びの里「めいりん」

雪害でオープン延期

平成18年豪雪の被害により、4月に予定していた学びの里「めいりん」の供用開始を3カ月程度延期することとなりました。当初、めいりんは3月末に工事を完了し、4月から供用開始を予定していました。しかし、1月以降ガラスや屋根の雪止めの破損が相次ぎ、市では第三者機関に調査を依頼し、安全対策を再検討してきました。

調査の結果、今回の被害の主な要因は「雪庇などの負担荷重の増加」であると考えられます。

市では利用者の安全を第一に考え、雪止め部材を大きく丈夫なものとし、本数を増やすほか、中庭に面したガラスには冬期間、雪囲いを設けるなどの安全対策を行います。

なお、破損した施設の現状復旧工事は施工業者が行い、雪止めの補強や雪囲いの設置などの安全対策工事は市の費用負担で行います。安全対策工事にかかる費用は5887万9千円です。

問合せ先

教育委員会庶務課（☎66・1111内線511）

定例市議会

一般会計に1億9630万円余を追加

三月六日から二十四日にかけて、第三百四十四回定例市議会が開かれました。平成十八年度の予算案をはじめ、十七年度の補正予算案など六十三議案を審議。いずれも提案ごおり可決・認定・同意されました。

17年度予算の補正

一般会計では、歳入・歳出にそれぞれ一億九千六百三十八万円を追加。補正後の総額は百八十九億六千五百四十四万円となりました。

補正の主な内容は▼除雪経費に二億五百六十一万円▼雪害により死亡した市民の遺族に対する災害弔慰金支給に千五百万円▼旧大野織産株式会社の工場敷地などの購入に二千八百万円▼借地を利用していた観光拠点施設「平成大野屋」の敷地購入に五千七百二十一万四千円▼医療費負担の増額による老人保健特別会計繰り出し金に八千三百九十六万三千円などとなっています。また特別会計では二億九千六百五十八万三千円を減額。企業会計も二千八

百十五万円を減額し、一般会計と特別会計、企業会計を合わせた予算総額は三百二十一億五千八百二十四万六千円となりました。

新議長に島口敏榮氏



議長
島口敏榮氏

牧野勇議長の辞任に伴い、島口敏榮氏（六十一歳・木本）が新議長に選出されました。島口氏は平成十一年に市議会議員に初当選し現在二期目。副議

長をはじめ、産経建設常任委員長、市町村合併対策特別委員長、総務文教常任委員長を務めてきました。

和泉地区施設の管理者決まる

指定管理者制度の実施に伴い、和泉地区の二十施設の管理者が指定されました。次の施設については管理者が変わり、大納地区集会施設は「大納地区集会施設運営委員会」が、道の駅九頭竜は「有限会社いずみ」が管理者に指定されました。

また「大野市農業委員会の選挙による委員の定数条例」が改正され、選挙に削減されました。六月に予定されている次の選挙から適用されます。

ご利用ください各種助成

越美北線の利用

対象 越前大野駅または九頭竜湖駅で、通勤・通学定期券や回数券、5人以上の団体に乗車券を購入した市民
助成額 越美北線利用区間の購入費または運賃の2分の1

申請方法

- ①通勤・通学定期券 有効期間の終了後1年以内に定期券を提示
- ②回数券 購入日から1年以内に、回数券の最終券（表紙）を提示
- ③団体利用 越前大野駅で発行される証明書を提示（証明書の発行で駅の窓口が込み合うことがあります。乗車券はなるべく前日までに購入してください）

必要なもの 助成金の交付を受ける口座の通帳（郵便局以外）と印鑑

太陽光発電などの住宅設備

対象となる設備

- ①太陽光発電設備
- ②屋根融雪・雨水再利用設備

補助件数 ①20件②11件（いずれも先着）
補助金額 工事費用の9分の2以内
補助上限 各40万円
申込期間 4月10日㊟～11月30日㊟
申込方法 所定の申込書に必要書類を添えて提出
その他 対象となるには、一定の要件を満たす必要があります

低公害車の購入

対象 平成18年4月1日以降に、ハイブリッド車などの低公害車を購入し、新車登録した個人または市内で事業を営む法人
補助件数 20件（先着）
補助金額 低公害車と通常車両との価格差の4分の1
補助上限 1台につき12万円
申請方法 新車登録後30日以内に、所定の申請書に必要書類を添えて提出

申請・問合せ先

生活環境課（☎66・1111内線463）

市民のページ

●あなたも紙面に参加しませんか。希望する人は、情報広報課広報広聴係まで
☎0779・66・1111（内線441）

ゆったり農村体験も

越前大野もてなし隊

ぐるーぷ登場



二月十八日、都市と農村の交流や生きがいづくりを目的とした「五箇であった会」が開かれました。このイベントを企画したのが「越前大野もてなし隊」です。

市が平成十一年に開講した「大野明倫館」のツーリズム学科生が中心となって平成十四年五月に結成しました。ツーリズムとは、訪ねてきた人が地域の暮らしに直接触れる旅行形態のことです。

市の高齢化率が二五%を超える中で、特に過疎化の進む五箇地区や阪谷地区などの農村地域を中心にイベントを開催。農業体験をはじめ、その地域の自然や文化に触れられるものを企画しているそうです。

「都市に住む人が農村を訪れて交流することで、地域の人たちの生きがいや健康づくり、地域の活性化につながれば」と思っています。五箇の場合、会場の公民館横にJR勝原駅があつてアクセスが良いので、越美北線の利用者が増えることも期待しているんです。



すよ」と事務局を務める一乗康純さん。

「五箇であった会」は毎回、地元住民や公民館の協力を得ながら実施していることで、今回も地元住民をはじめ、福井市や鯖江市から総勢六十五人が参加。近くの竹やぶから切り出してきた竹で、はしや器を作製し、寒天や牛乳、ゴマなどを使ったおやつづくりに挑戦したり、地元の野菜を使ったなべ料理を堪能したりしながら、ゆったり流れる一日を満喫していました。有終



南小に通つ中野紗和さんは「ほぼ毎回参加しています。将来は大工さんになって家を建てたい。のこぎりを使って竹を切る体験ができるので楽しいです」と話してくれました。

もてなし隊では、これから「楽宴でござす」や「芋鍋会&稲かつべ選手権」、「小京都着物でそぞろ歩き」など、多彩なイベントを随時開催していく予定です。詳しくは事務局の一乗さんまで、Eメールで問い合わせください。
Eメール ichihon@nifty.com

こんにちは

ました。通知を見て「こんなんあるんだ」って思って、いろいろ考えました。「人権」って何なのか分からないまま書いていたら、ピンとひらめいた作品ができたんです。他の人が考えなさそうな作品に仕上がったと思い、家族などに見てもらって応募を決意しました。

—どんな風にひらめきましたか

テンポがいい作品を考えていて、最初のフレーズ「私、好き」が出てきました。それから名前は名字が珍しいので好き、顔と命は全部好きで選びました。両親に感謝しています。

—受賞を聞いてどう思った。周りの反応は

受賞するなんて思ってもみななかったのでびっくりしました。部活の途中、先生に呼び出されて受賞と表彰式の話聞いたんです。クラスの友達や先輩はとても驚いていましたね。家族はみんな喜んでくれました。

—妙願さんにとって「人権」とは

今でもはっきりとは分かりませんが、人とのかわりとか自分のことなのかなと思っています。

県人権標語で優秀賞 「私、好き この名とこの顔 この命」



みょうが ん 妙願 紗紀さん (上庄中2年)

妙願さんは、県が昨年募集した人権標語で優秀賞を受賞しました(応募総数4972件)。受賞作「私、好き この名とこの顔 この命」に込められた思いを聞きました。

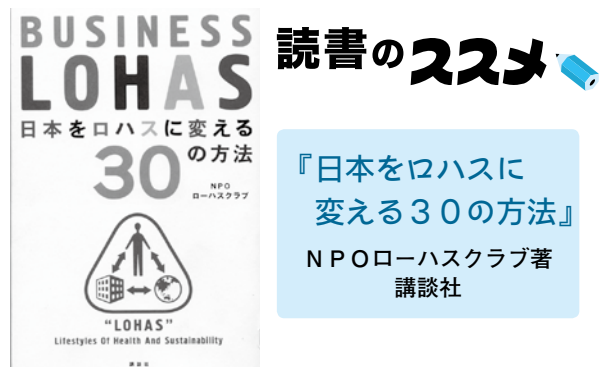
—応募したきっかけは
学校で応募を呼び掛ける通知が全員に配布され

【一般小説】
ペダルに向こうへ(池永陽) 沖で待つ(絲山秋子) ガール(奥田英朗) クロースドノート(栗井脩介) ひなた(吉田修二) 「戦艦大和」日記(早坂暁) 【ノンフィクション】
宮中賢所物語(高谷朝子) 一生懸命って素敵なこと(林文子) 神様が創った試合(松下茂典) 人名字解(白川静ほか) 美人のいろは(山下景子) パスルでめぐる奇妙な数字ワールド(イアン・スチュアート) 経産省の山田課長補佐、ただいま育休中(山田正人)

新着図書



【児童図書】
リゴニー・ステルンの動物記(マリーオ・リゴニー・ステルン) 原発を考える50話(西尾渙) 雪窓(安房直子) すみれちゃん(石井睦美) ハロルドのしっぽ(ジョン・バーメルマン) マルシアーン(ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか(アレン・ネルソン) 【絵本】
鬼の首引き(岩城範枝) ぼけつとくらべ(今江祥智) 赤ちゃんが教室にきたよ(早川ひろ子) ポテトスूपが大好きな猫(テリー・ファリッシュ) つなひきライオン(まどみちお) その他、百六十七冊入りました。



ロハスとは「健康と地球の持続可能なライフスタイル」という意味の言葉です。

地球温暖化や食育が問題になる今日、環境にやさしい、健康に良いなどの形容詞がつく製品やサービスがたくさんあります。ロハスの考え方は、それが一時の流行で終わるのでなく、個人も企業も社会も持続可能な方向へ転換していくことがポイントであるとしています。

この本では、ロハスを好む人々の特徴、ロハスの考え方を基本としている企業やまちづくり団体などの取り組みを紹介して、ロハスを正しく理解し、ビジネススタイルに取り入れることを勧めています。

お知らせ

4月8日 春季消防総合訓練を実施します



明治21年（1888年）4月8日、銭湯から出火した火事は死者3人、被災者4千人を超える被害を出しました。当時の大野町役場はこの日を「大火記念日」と定め、防火に立ち上がりました。市消防本部では、この記念日に市役所と有終会館周辺で消防総合訓練を行います。訓練当日は午前8時45分に2回、亀山のサイレンが鳴りますのでご承知ください。会場の市役所、有終会館駐車場や周辺の道路には、前日（7日）の夜から駐車しないでください。

さわやか貯筋運動 参加者を募集

保健衛生課

自分の推定筋肉量や体脂肪率はどのくらいなのか知っていますか。

各種測定や筋力アップの運動メニューを実践し、一緒に健康づくり始めませんか。

日時 5月1日（日）午前9時～

場所 有終会館

内容 楽しく筋力アップ、栄養

※推定筋肉量や骨密度などの

事前測定（4月下旬開催）

を行います。電話で申し込みの際、事前測定の予約が必要

です

参加料 1000円（保険料）

申込・問合せ先 保健衛生課

（☎65・73333）

各種審議会の委員募集

生活環境課

●環境保全対策審議会

定員 2人

内容 環境保全に関する

●廃棄物減量等推進審議会

定員 2人

内容 ごみに関する

●地下水対策審議会

定員 3人

内容 地下水に関する

●応募資格 市内在住の20歳以上

上で、各審議会が取り扱う

問題に関心がある人

任期 委嘱日～平成20年3月

31日

会議日程 年2～3回、原則

として平日に開催予定

●応募方法 各審議会が取り扱う

問題に日ごろ感じている

ことを400字程度にまと

めたレポートと履歴書を直

接持または送付

●応募締切日 4月25日（午

後5時必着）

●応募・問合せ先 生活環境課

環境保全係 〒912-118

666大野市天神町1-1

（☎66・1111内線462）

「食生活改善推進員」 養成講座の受講者募集

保健衛生課

日程 5月19日から平成19年

2月16日までの毎月第3金

曜日（全10回）

時間 午前9時30分～午後1時

「広報おおの」リポーター募集

～あなたも広報紙作りに参加してみませんか～

市内のさまざまな情報を紹介してくれるリポーターを募集します。広報おおの7月号から掲載予定の新コーナー「てくてくレポート」に、まちの話題を紹介してみませんか。

募集人数 10人

対象 市内に在住または通勤・通学している18歳以上

活動内容 企画、取材、原稿作成

謝礼 1回4000円

応募期間 4月3日（日）～24日（日）

応募方法 住所・氏名・電話番号・応募の動機（200字程度）

を明記し、封書、ファクスまたはEメールで

応募・問合せ先 情報広報課広報広聴係

〒912-8666大野市天神町1-1

（☎66・1111内線442 ㊚66・1767）

Eメール yamabiko@city.fukui-ono.lg.jp



場所 保健センター

内容 健康・栄養・運動に関

する講義、実技、調理実習

対象 地域の健康づくりに意

欲を持ち、推進員としてポ

ランティア活動できる人

定員 20人（先着）

受講料 無料

申込・問合せ先 保健衛生課

（☎65・73333）

人権擁護委員 吉岡和男氏が退任

企画課

任期満了により、吉岡和男氏（上大納22-11）が3月末で、「人権擁護委員」を退任しましたのでお知らせします。

問合せ先 企画課市民協働係

（☎66・1111内線435）

●大野市役所・大野市教育委員会 ☎0779・66・1111
住所 〒912-8666 福井県大野市天神町1-1

妊娠したら保健センターへ

赤ちゃんができたら妊娠届出書を市に提出することで母子健康手帳が受け取れます。この届け出と手帳の受け渡し場所が4月から変わります。

これまでは市民課窓口で行っていましたが、今後は保健センター（大野市篠座117-6-1）で届け出と手帳の交付を行います。和泉支所住民課では引き続き、届出書の提出と手帳の交付を行います。



※子供が生まれたときに出す出生届はこれまで同様、市民課または和泉支所へ提出してください

問合せ先

保健衛生課（☎65・7333）

国民年金

○障害基礎年金を受給している65歳以上の人は、自分や亡くなられた配偶者などが以前納めていた厚生年金を受給できるようになりました。詳しくは福井社会保険事務所（☎0776・23・1002）まで問い合わせください。

○学生で所得が少ない人は、保険料を後払いできる「学生納付特例制度」が利用できます。すでに利用している人も毎年申請が必要です。学生証または在学証明書を持参し、市民課または和泉支所で手続きしてください。

問合せ先

市民課国保年金係
（☎66・1111内線456）

市民のうごき

	3月1日現在	前	月	比
世帯数	12,311世帯	27	世帯	
人口	39,765人	5		
内訳	男	18,965人	-2	
	女	20,800人	7	
2月中の異動	転入	99人	出生	22人
	転出	79人	死亡	37人



第28回大野さくらまつり

日程 4月3日①～18日②
会場 亀山・義景・有終公園
お祭り広場（有終公園）
15日① 午後0時30分～8時
ふるさと大使委嘱式やぼんぼり・あんどん点灯式など
16日② 午前10時～午後3時
ちびっこ太鼓演奏など
問合せ先 社団法人 大野市観光協会（☎65・5521）

① 4月17日～6月19日までの日程

ヨガ教室の参加者募集

勤労青少年ホーム

問合せ先 城まつり実行委員会（大野商工会議所内 ☎66・1230）

城まつり生音頭など演奏参加者募集

城まつり実行委員会

生音頭育成保存会では、毎年お盆に開催される「おおの城まつり」の「おおのおどり」で、生音頭や演奏などに参加する人を募集しています。歌・三味線、太鼓、笛など何でも結構です。やってみたいという人の参加をお待ちしています。

住基カードの利用

市民課

住民基本台帳カードは、転入・転出の手続きやインターネットを利用して行政機関へ申請などを行う際に利用できます。また、パスポートや運

毎週月曜日（全10回）
② 4月21日～6月23日までの毎週金曜日（全10回）
時間 ①午後1時30分～②午後7時30分
場所 勤労青少年ホーム
定員 各15人（先着）
参加料 無料
申込締切日 4月14日（金）
その他 運動しやすい服装で参加
申込・問合せ先 勤労青少年ホーム（☎65・7221）

あっ宝んど・うらら館入浴とバス利用「助成券」配布を終了

平成12年度から介護予防の一環として、70歳以上の高齢者を対象に「あっ宝んど・うらら館」入浴と往復バスの利用助成券を配布してきました。

しかし、利用率が低下してきたことなどから、平成17年度をもって助成券の配布を終了しましたので、お知らせします。

今後は、新しく始まる介護予防事業を充実し、高齢者の健康増進を図っていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

問合せ先 福祉課高齢福祉係
（☎66・1111内線484）



転免許証と同様、写真付きの身分証明書として利用できる便利なカードです。希望する人は、印鑑と写真1枚を持参して、市民課で手

続きを行ってください。
発行手数料 1枚500円
申込・問合せ先 市民課市民窓係（☎66・1111内線453）

暴力追放に一丸

暴力を一掃し、明るく住み良いまちづくりを実現しようと「暴力追放大野市民大会」が2月20日、有終会館で開かれ、一般市民や関係者約100人が参加しました。市民大会は、暴力団の活動が活発化した昭和62年から2年に1回開催しているものです。追放宣言や表彰に引き続き行われた講演では、県警察本部の小林久人さんが、現在の暴力団の活動実態などを話しました。



「男女共同参画」知識や能力 学ぶ

男女がともに尊重し合い、個性と能力を発揮できる社会を実現するため、必要な知識や能力を身に付けるセミナーが2月20日から3月4日にかけて3回シリーズで開かれました。講義や意見交換などを通して議論していく中で、社会でつくられた「当たり前」への対処や個性を伸ばす子育ての方法などを学びました。

「雪」岩倉市へ贈る

旧和泉村が姉妹都市提携を結んでいた愛知県岩倉市に2月14日、約6トンの雪が贈られました。これは、雪がほとんど降らない岩倉市の子供たちに雪で遊んでもらおうと平成9年から毎年行っていたものです。雪が届けられた岩倉市立東部保育園の園児113人は早速、かまくらや雪だるま作りなどを楽しみました。(写真は岩倉市役所提供)



ふるさとの自然再認識

市に生息するイトヨの保護や自然環境の保全の重要性を広く知ってもらおうと「イトヨフォーラム」が2月26日、本願清水イトヨの里で開かれました。水生生物や大野盆地の地質、和泉地区の自然などの研究発表に、参加した約80人は熱心に聞き入っていました。



話題のひろば



219人が滑降

「第27回九頭竜スキー選手権大会」が3月5日、九頭竜スキー場で開かれました。スノーボードとスキーの大回転に小学生から一般まで219人が出場。ゴール目指して、果敢に挑戦していました。



「食」から健康考えよう

食生活改善推進員協議会（若葉会）が主催する「健康ランチバイキング」が2月26日、保健センターで開かれました。個々の食習慣を見直そうと毎年開催しているもので今回が8回目。参加者は何をどれだけ食べれば良いのかを考えながら食品を選んでいました。



自分らしく生きよう

市民一人一人の「人権」への意識高揚を図ろうと、2月25日に有終会館で啓発講演会が開かれました。和歌山県御坊市で身体障害者福祉協会会長を務め、自らも障害がある柳岡克子さんが講演。体験を交えながら、自分らしく生きる喜びを語りました。



“だんごまき”大わらわ

木本区に伝わる伝統の「初午だんごまき」が3月5日に行われました。キツネやまゆ玉にかたどり、食べると無病息災に効果があるとされるだんごを求めて会場に詰め掛けた大勢の人たちは、われ先にと“縁起物”を拾い集めていました。

表紙のこぼ

富田小学校では4年前から、給食に地元の食材を使う「地場産給食」を進めています。野菜を提供するのは減農薬や有機肥料を使った栽培に取り組む麻地菜（あじさい）グループ。毎朝、新鮮な野菜を学校に届けてくれます。給食の時間には全校児童がランチルームに集まり、給食委員がその日の献立の栄養素や食材を育てた人の名前を紹介し、調理師の鈴木美智子さんは「作った人が分かる野菜なので安心して給食に出せます。毎日1品は必ず地場産野菜を使っています」と話します。撮影で訪れた日の献立は、わかめご飯、豚汁、大根と厚揚げの炊き合わせ、牛乳でした。子供たちは地元でとれた大根やネギ、白菜、ゴボウがたっぷり入った給食をおいしそうに味わっていました。

編集後記

食育と聞いても具体的なイメージがわからない。これは、食育に含まれる範囲があまりにも広いことが原因だと思われ。しかし範囲が広いということは、その分、入り口も多いいということ。子供と一緒に料理を作る、家庭菜園で野菜を育ててみるなど、自分に身近な入り口を見つければ、食育はもっと親しみやすくなるのではないのでしょうか（竹田）

いづみ探訪



このコーナーでは、和泉地区の観光スポットや、名所・旧跡などを紹介します。



和泉郷土資料館

【概要】

笛資料館は、源義平伝説の「青葉の笛」の複製をはじめ、しの笛、能管、竜笛、土笛など、笛を専門的に展示しています。事前に予約すれば自分だけの横笛を作ることができます。和泉郷土資料館では日本最古の鳥の足跡やティラノサウルスの頭骨模型、平成8年秋に発見されたティラノサウルス科の歯の化石などの複製を常設展示しています。穴馬民俗館は約300年前に建てられた古い農家で、昔から使われていた民具などの民俗資料をそのままの形で保管・展示しています。

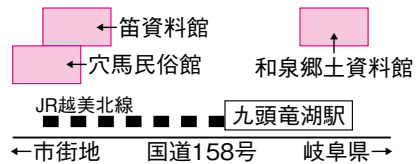
【開館時間】 午前9時～午後4時

【入館料】 一般300円（3館セット）

※中学生以下無料。笛資料館で購入

【定休日】 毎週月曜日、祝日の翌日、12月～3月

【アクセス】



笛資料館・和泉郷土資料館・穴馬民俗館

(笛資料館 ☎ 78・2041 和泉郷土資料館 ☎ 78・2845)



今年の大雪には疲れた。いやでも「これがまあつひの栖すまみかが雪五尺すゐしやく」の感を深くして、ほとほと参った。が、すでに春風駘たい蕩とう、へこたれてはいられない。新年度のスタートだ▼気掛かりも一つある。雪害で枝折れ損傷のひどい樹木、生きて立ち直れるか。なかでも桜の木、亀山桜や九頭竜万本桜の名所にあちこちの山桜や八重桜など開花状態はいかがか。今季も桜花の咲き誇りを切に願う▼さて、大野を舞台にした時代小説に童門冬二著「海の街道」がある。幕末は越前大野藩の洋帆船大野丸などの活躍を描いている。作中この地について書かれた一部分にこうある▼「夕暮は特有な匂においがする。周りを囲む山が発散する匂においだ：雪は、風景の色を消して白一色にする。それだけではない。音も消してしまう。不思議な静けさが漂いはじめると。そして作者はその中に「開明」を見ている▼雪はもう結構だが、当市は「不思議な静けさ」の印象があるのだから。ともあれ、誰であるかと他人さま（市外の人）から見た目の言説は大切で、参考に聞かねばならぬ▼一種のいい意味で「静けさ」の地もそれはそれで魅力なのかもしれない。プラス思考で住みよいまちづくりに最大限に役立ててみては。ひいてはそれが人を引きつける原資（観光なども含めて）ともなるかも▼「不思議な静けさ」とは暗示か。その魅力と活用について考えてみるのも：開明につながるか（武藤）